

第56回秋田県更生保護大会

令和5年11月20日、第56回秋田県更生保護大会は、秋田市の秋田芸術劇場ミルハスを会場にして開催され、約700名の関係者が参加しました。



法務大臣表彰 桜田氏（右から4人目）

能代地区から次の方々表彰されました。

○法務大臣表彰

桜田星宏

○全国保護司連盟理事長表彰

嶋田仁 淳城英夫

○東北地方更生保護委員会委員長表彰

工藤昭子 鈴木泰賢 水野京子

○東北地方保護司連盟会長表彰

小野立

○秋田県保護司会連合会長表彰

長岡真紀子 三浦由明

○秋田県知事感謝状

赤川秀悦 菊地京子 佐々木俊治

高橋信行

○秋田県保護司会連合会長感謝状（家族功労）

高橋知子（信行） 永井寿美（幹子）

おめでとうございます



受賞された皆さん

県北ブロック更生保護活動研究会

令和5年10月3日北秋田市交流センターに於いて、能代・大館・鹿角・北秋田の各地区保護司会から約70名の保護司が参加し、研究会が行われました。研究会では保護司の安定的確保について3分科会に分かれ、ワークショップ方式で話し合いました。

第1分科会 保護司適任者の確保の方策について

第2分科会 若手保護司の確保の方策について

第3分科会 ICTを活用した保護司の確保の方策について

この後、各分科会のまとめが発表され、保護司の認知度を上げる、個々の負担を軽減する工夫が必要等とありました。最後に保護観察所長の講評をいただきました。



第2分科会



秋田県更生保護大会に参加して

雄鹿 成子

県大会は、はじめに「社会を明るくする運動」作文コンテストで表彰された小学生と中学生による作文発表がありました。次代を担う青少年が、日常の家庭生活や学校生活の中で考えていることや体験したことを通して、この運動を理解しているのだなあと思いました。たいへん頼もしく感じました。

次に秋田大学大学院教育学研究科北島正人教授による「罪を償った人」を受け容れられる社会づくりに向けて」と題する講演がありました。

「社会的絆（ソーシャル・ボンド）理論」一般社会につなぎとめておく「こころの中の、係留綱」というお話が心に残りました。簡単に内容を紹介します。

人が犯罪をしないのは、社会とのしっかりとした絆（ボンド）があるからで、その絆が弱まったときや壊れたときに犯罪や非行がおこってしまう。この社会的絆とは、次の四つである。

① こころのつながり「愛着」

家族や学校、仲間など、愛着を感じる相手には、期待に応え、裏切りたくない。

「感情レベル」での絆

② 守りたい、今の幸せ「生活上の投資」

法を守りながら成功したい、損得を考える→犯罪行動はしたくない。

「意識レベル」での絆

③ やるべきことがある「巻き込み」

決まったスケジュール活動（日常的な事柄）によって、自分が巻き込まれる（忙殺される）ほど社会との強いつながり（紐帯）をもち、犯罪に至らない

④ みんなと一心同体「規範観念」

法を正当なものとして、ゆるい解釈にすり替えない（規範意識が確固たる信念である）人ほど犯罪行動には走らない。

社会的絆



このような貴重なお話を伺うことができ、学びの多い時間となりました。

講演終了後、式典が行われました。たくさんの方々が頑張っておられるのだと改めて思いました。

訃報

淳城英夫様が去る1月9日急病のためご逝去されました。謹んでお悔やみ申し上げます。



成田豊氏
(八峰町峰浜)



内山直光氏
(八峰町峰浜)



伊藤誠氏
(三種町豊岡)

新任保護司の紹介

長い間お世話になり心より感謝いたします。

高松 正嗣 氏	令和5年6月30日付
(三種町森岳)	
腰山 良悦 氏	令和5年11月30日付
(八峰町八森)	
笠原 貞子 氏	(八峰町峰浜)

退任保護司の紹介